

○伊東理恵* 今井範子* 越家恭子** (*奈良女大, **奈良女大・院)

【目的】本研究は、日本の都市住宅における畳空間の消長を検討し、今後の畳空間の方向性を探るための一手段として、デザイン面から検討しようとするものである。近年の畳空間は、新しいデザインや素材を用いて現代性が加味されるなど多様化しつつあるが、今後どのような畳空間が居住者に受け入れられるのか把握検討する必要があると考える。そこで本研究では、居住者の畳空間デザインに対する志向性を探ることにより、今後の畳空間のデザイン計画に示唆を得ることを目的としている。これまで関西圏集合住宅の結果を報告¹⁾したが、今回注文戸建住宅をとりあげ、本報告では、畳空間への要求が強いと思われる中部圏の注文戸建住宅居住者について、畳空間デザインの志向性を、属性や成育住宅との関連から明らかにする。

【方法】住都公団が開発分譲した中部圏の3住宅地を選定し、近年新築の注文戸建住宅を対象に、質問紙調査を実施(1999年10月)。調査票は世帯票と個人票の2種からなる。畳、建具、デザイン、素材など畳空間のデザイン全体に着目し、伝統的な型から現代的な型まで、典型的な畳空間の5つの型を抽出して設定し、写真を用いた調査を実施した。有効サンプル302。

【結果】伝統的な畳空間の写真を1位に選好する者は半数程度であった。その内容はまず、女性より男性の方が伝統的なデザインを好む割合が高いが、男女とも年代が上がるほどその傾向が強い。女性より男性がその傾向が顕著で、男性では世代間較差が大きい。30歳未満の男性、女性の30代、40代では他の年代より、畳と板が併存する、近代素材の使用、畳コーナー等、現代的な畳空間を好む傾向があることがわかった。また、例えば農村住宅などで育った者では、伝統的デザインへの志向性が高いように、成育住宅との関連性が認められた。全体として、伝統的なデザインへの志向が強いと予測していたが、現代的なデザインへの志向性が確認された。

1) 今井範子, 伊東理恵: 畳空間のデザイン志向性の検討 - 大都市圏の集合住宅居住者の場合 -

その1 居住者の属性からみたデザイン志向, 日本建築学会近畿支部研究報告集, pp33-36, 1999. 6

※本研究は文部省科学研究費(基盤研究C:研究代表者 今井範子)による。